物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　姉のけっこん式を よんで、席にもどったときの優の心情を1つえらびましょう。

姉の けっこん式で、優は 花束を わたす 役だった。会場の だれもが 目を うるませる 中、優は 花束を わたし終えると、席に もどり、冷めた スープを 一気に 飲みほした。朝から きんちょうで、何も のどを 通らなかったのだ。

1 姉が家を出ていくさびしさがこみ上げ、なみだをこらえている。

2 会場のみんなと同じように、感動で胸がいっぱいになっている。

3 大役を終えて気がゆるみ、急におなかがすいてきた。

4 花束のわたし方がうまくいったか、まだ気になっている。

2　引っこす前の日を よんで、小指を差し出した莉子の思いを1つえらびましょう。

引っこす 前の 日、幼なじみの 二人は いつもの 海辺に 立った。かける 言葉が 見つからず、ただ 波の 音を 聞いていた。やがて 陽菜が「手紙、絶対 書くから」と 言うと、莉子は だまって 小指を 差し出した。

1 はなれても、また会いに来ると約束したい思い。

2 はなれても、手紙の約束でつながっていたいという思い。

3 はなれても、いつかまた同じ海辺に来ると約束したい思い。

4 はなれても、今日のことはわすれないとちかう思い。

3　子ども会を よんで、この場面での慎の変化を1つえらびましょう。

子ども会で、慎は 一年生に こま回しを 教える ことに なった。こまなら だれにも 負けない 自信が ある。ところが「どう やって 投げるの?」と 聞かれると、言葉が 出て こない。慎は 一年生を 待たせた まま、何度も 自分で 投げては、手首の 動きを じっと 見つめた。

1 得意なつもりだったが、教えようとして自分の投げ方を見直し始めた。

2 得意なつもりだったが、一年生のほうが上手だと気づいてあせり始めた。

3 めんどうに思っていたが、一年生に感心されて教えるのが楽しくなった。

4 めんどうに思っていたが、教えるうちに一年生がかわいく思えてきた。

物語文を読んでえらぼう【こたえ】

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

答えと、たしかめるところ

1　答え：3

わたし終えると『冷めたスープを一気に飲みほした』。朝から『きんちょうで、何ものどを通らなかった』ので、役目を終えて気がゆるんだのです。目をうるませたのは会場の人たちです。

2　答え：2

『手紙、絶対書くから』と言われて、小指（指切り）を差し出した。手紙の約束でつながっていたい思いです。

3　答え：1

『だれにも負けない自信』があったのに、投げ方を聞かれると言葉が出ない。そこで『何度も自分で投げては、手首の動きをじっと見つめた』。めんどうがる様子や、一年生が投げる場面はありません。

読み取るコツ

直接書かれていない心情は、行動・様子・せりふ（だまる・にやりとする・横顔）から読み取ります。